

基盤的防災情報流通ネットワーク（SIP4D）

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 半田信之

Point

- 災害対応機関同士で情報を「共有」する基盤システム
- 内閣府の新総合防災情報システムがSIP4Dの研究成果を採用し運用開始
- SIP4Dは防災研究の情報流通基盤として防災科研が運用・開発を継続

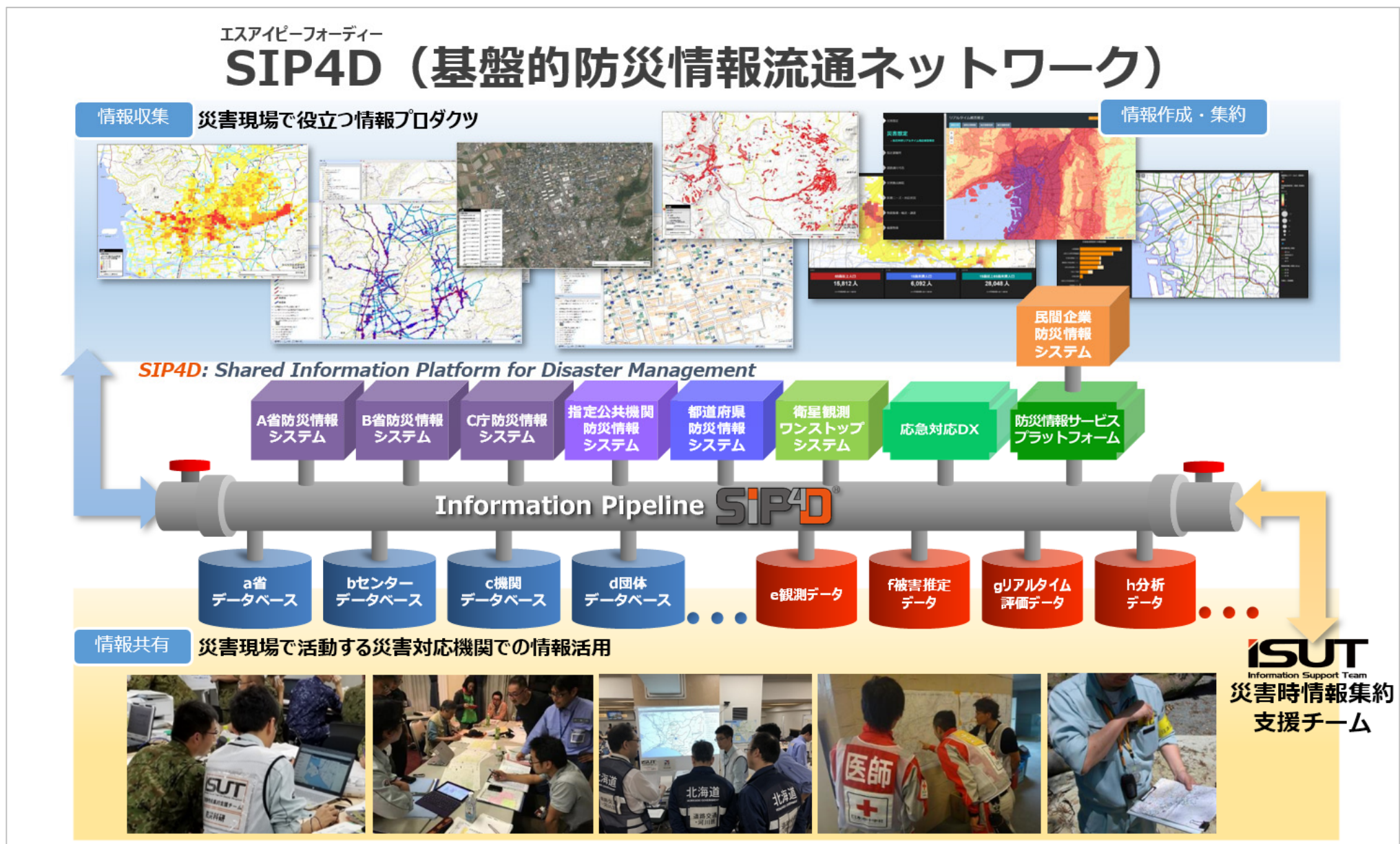
概要

SIP4D（エスアイピィフォーディ）は災害対応を行う様々な機関が保有する情報を「相互に共有する」ことで、対応機関間の状況認識の統一をはかり災害対応を効率的に実施できるようにするための情報流通基盤です。

SIP4Dは内閣府が主導する「戦略的イノベーション創造プログラム」（通称：SIP）の一環として2014年より研究開発が始まり、プロジェクト終了後の2019年からは実災害への適用と更なる研究開発のため防災科研が運用を行ってまいりました。

当初SIP4Dは府省庁の情報連携を目指していましたが、2020年度に実施された都道府県防災情報システムとの接続実証事業を契機として、都道府県・政令指定都市との接続を開始しました。近年頻発する風水害、地震における対応においても、自治体の避難所の開設状況や通行規制の情報がSIP4Dを通じて他機関へ共有されています。

2021年度にはSIP4Dの活用が国の防災基本計画に明記され、国の災害対応システムとしてより強い立ち位置を得ることとなり、更に本年度（2024年度）から稼働を開始した内閣府の新総合防災情報システムにおいては、SIP4Dの研究成果である災害対応機関同士の情報共有機能や共通データフレームワーク（SIP4D-ZIP）が採用されることとなりました。



今後の展望・方向性

内閣府の新総合防災情報システムは本年度（2024年度）より運用が開始されましたが、SIP4Dは研究開発システムとして今後も防災科研が運用を継続します。

災害実務においては内閣府の新総合防災情報システムがその中核となりますが、SIP4Dは防災科研の情報基盤として、また各研究プロジェクトや外部機関における防災研究の成果を流通させる情報基盤としての役割に特化いたします。

なお、SIP4Dと新総合防災情報システムは運用主体と主目的が異なるシステムとなりますが、両システム間のデータ連携により、防災研究の成果をいち早く実務に試行的提供を可能とするなどの連携を図っていく予定です。

